

所属	生涯福祉研究科 生涯福祉専攻 修士課程	修了年度	平成 26 年度
氏名	野田 日出子	指導教員 (主査)	荒牧 美佐子

論文題目	就学前後の子どもを教師はどのように捉えているのか 幼稚園教師と小学校教師の語りからの比較
------	---

### 本文概要

**研究の目的** 幼児教育では、物的環境だけではなく保育者や仲間などの人的環境も重要な環境として捉えている。その重要な人的環境としての幼稚園・小学校教師が、接続期の子どもたちをどのように捉えているのかということに着目した。同じ子どもの就学前後（接続期）の姿を縦断的に追ひ、直接的に教育・指導を行っている幼稚園・小学校教師がその接続期の子どもの個人差を具体的にどのように捉えているか、また、具体的なかかわり方の違いや特徴・共通点などを、実践知や専門性を含んだ教師の語り、個人の体験（教師の実践や経験）と結びつく語りに積極的に働きかけ、教師の主観を通して、その裏側にある実践知、専門的見識の違いを捉えていくこととした。

**研究方法** 静岡市内私立 a 幼稚園教諭（年長 5 担任 2 名、預かり保育担当 1 名）に対し 4 回（2014 年 1 月～3 月）、静岡市内公立 b 小学校教諭（1 学年担任 2 名）に対し 4 回（2014 年 5 月～8 月）インタビュー調査を行い逐語化した。それぞれの子どもの性格・学校生活の様子などをどのように捉え理解しているか、学年目標とカリキュラムを基に心配なことや課題についてなどを質問した。分析 1 では、保幼小接続期カリキュラム（2013 年 3 月東京都北区教育委員会）の領域を基に、幼稚園・小学校教師の子どもを捉える視点の分布について比較検討した。分析 2 では、幼稚園・小学校教師の逐語録総文字数の差が最も大きい対象児について、教師が具体的にどのような捉え方をしているか、ポジティブな捉えとネガティブな捉えの内容について、具体的な目標設定、手立て、かかわり方などについての違いを分析した。

**結果と考察** 分析 1 より、接続カリキュラムの領域においては、幼稚園・小学校教師ともに子どもの「かかわる力」について重要視しており、次に「生活する力」「学ぶ力」であり、領域における視点の分布には大きな差はないことが分かった。分析 2 より、幼稚園・小学校教師では、子どもとのかかわりの時間（年月）の差、カリキュラムや指導法も含めそれぞれの教師の背景にある幼稚園と小学校の文化などの違いがあり、子どもを捉えるときにその力が大きくはたらいっていることが分かった。幼稚園教師は、既に子どもとのかかわりに積み重ねがあるため、年少・年中時の様子や性格などを十分に理解した上で個々を捉え、心情を探り、就学を踏まえた目標設定や相応しい援助方法を深く見出そうとする傾向があった。小学校教師は、子どもの過去を知っている幼稚園教師とは違い、4 月に子どもたちと出会ったばかりであるため、全体的な小学校 1 年生の姿や、進級した学年、または最終の 6 年生の姿から 1 年生の理想とする姿のイメージを持ち、それを基に個々を捉え、目標設定しかかわっていることが分かった。

**今後の課題** ①幼稚園だけではなく、保育所保育士や認定こども園の保育教諭と小学校教師における子どもの捉え方の違いについての検討も必要である。②小学校において、2 学期、3 学期と時間を経ている中で、子どもの様子の変化や成長に伴い、小学校教師の子どもの捉え方がどのように変わっていくのか、それらを追っていくことも必要である。③教師の経験による実践知の違いに基づいた、子どもの捉え方の違いについて明らかにしていくことも検討する。④幼稚園教師と小学校教師だけでなく保護者も含めて、子どもの捉え方の違いや共通点、特徴なども明らかにする必要がある。